

令和2年度 第4回 伊勢市障害者施策推進協議会 自立支援部会 議事録（要旨）

開催日時：令和2年11月10日（火）午前10時～12時

開催場所：伊勢市役所 東館4-2会議室

出席委員：市川知律会長、浦田宗昭委員、竹澤尚美委員、森見典子委員、大田桃子委員、三上政和委員（欠席：直江敦代委員、中川佳代委員、川口幸生委員、岡田まり委員）

事務局：伊勢市障害者総合相談支援センター フクシア（基幹型）職員2名

傍聴者：3名

●障がい福祉課課長より

- 今年度相談支援センターの委託期間が終了となる。今後は重層的な相談支援体制や、高齢者との一体的な相談体制を作っていく予定であり、来年度から基幹型は直営で行い、委託相談は委託を継続していく。自立支援部会や基幹相談支援センターについてもスムーズな引継ぎができるようにまとめていただきたい。

各プロジェクトチームの共有・今後の検討

●人材確保・ヘルパーの人材確保・ヘルパーの人材育成・人材定着について課題の報告。内容については以下のとおり。

- 幼少期からの啓発的取組み、福祉の仕事の魅力発信が重要。
- ヘルパーを取得できる講座の開催、ヘルパー同士の交流の場が必要。
- 人材確保と定着支援のセットが重要、相談できる場所が必要。
- 育成計画を作る時間及び人材が必要。

●人材確保・人材育成・人材定着の具体的な内容については以下のとおり。

- ビジネスパーク伊勢への講師参加。PRのため、各事業所の写真等をHPにて掲載。
- 介護職員初任者研修費等助成事業の障害分野への対象者拡大の提案。
- ヘルパー助成制度の周知。
- ヘルパーと訪問看護の交流会。人材の評価指標と認証及びその養成研修の仕組みづくり。
- 日本看護協会のクリニカルリーダーを参考に、障害版として人材の評価指針を検討すべき。

【各委員より】

- ヘルパーと訪問看護の交流会について、保健所でも訪問系との連携が大事と思っている。
- 定着に取り組む事業所の評価制度について、どのようなルートで話を出すのか。
⇒人材チームメンバーである三重県福祉人材センターとまずは現状等を確認させてもらう。

●就労支援チームからの報告

- 商工会議所の協力により障害者雇用の実績のある2社（（株）ぎゅーとら、（株）山野建設）から、障害者雇用に関しての意見を聞かせて頂いた。
 - ・障がい者のことを知る機会が欲しい。障がい者との接点が必要。

●「障がいのある方の就労」について

- 全体を踏まえての課題、解決へのアイデアについて。内容は以下のとおり。

- ・ハローワークより職場体験の制度を利用してほしい。会社への勉強会も行うことができる。職業センターから専門的な助言をもらうこともできる。
- ・求人内容、方法について、企業側も柔軟に対応してほしい。
- ・企業への啓発や障害特性ごとの対応周知が必要。
- ・障害者の自己理解、手帳なしでの利用、パーソナルカルテについても活用促進が必要。
- ・連携との役割分担について、相談窓口の明確化。
- ・情報量が過多のため、整理と集約が必要。

●交流会

- 延期していたものを再開するもので、内容に変更はない。
- 新型コロナの感染状況を鑑みて変更も視野に入れるべきでは。という意見。
- Web 会議での進行や操作方法について、マニュアルや助言が必要。

●障害福祉サービス事業所連携会議について

- 居住系、日中活動系、児童通所系、訪問系、就労系グループから報告。内容は以下のとおり。
 - ・地域移行、コロナ 等 ・課題共有、課題解決 等 ・事業所間連携
 - ・ヘルパーと訪問看護の連携 等 ・福祉的就労の向上

【各委員より】

- 課題の共有とは？⇒課題解決の前に、課題の共有をしたい。
- 訪問看護事業所連絡会にて周知して頂けることになっている。
- ポイントを絞った具体化した課題を話し合いたい。

●見学会

- 各事業所より 15 枚程度の写真等を提供していただき、HPにて公開する

●新たなプロジェクトチームの必要性について、2つのチームが必要と考えられる。

- 医療的ケアの必要な方に関する検討を行うチーム
- 地域の実情を共有し地域課題の抽出等を行うチーム

●新型コロナ感染症への対応

- 「クラウドいせ」の現状について報告
 - ・現在の参加申し込み状況は 21 事業所。
 - ・有益な情報は、現状は、主に事務局からクラウドにアップしてもらう。